

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(英語)／山森  
直人

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

- ①授業内容を教育現場の実践と関連づけて授業を構成する。
- ②授業方法としては受講生との対話を軸に据えながら、知識・技能に関わる基礎・基本の獲得を徹底する。
- ③授業の到達目標を明確に示し、到達目標にもとづき成績評価を行う。

#### 2. 点検・評価

- ①担当授業ではいずれの授業においても、教育現場の実践との関連を意識して授業内容を構成した。特に前期「初等中等教科教育実践Ⅲ(英語)」においては学内での模擬授業と附属小中での模擬実習を行い、また、後期「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」では教育実習における英語科授業に必要な教室英語力のトレーニングを行い、教育内容と教育実践との関連づけを図った。(Ⅱ-1-②およびⅡ-4-①と関連)
- ②担当授業ではいずれの授業においても、学生同士の話し合いの場を多く設けると同時に、毎回の授業に関する感想を電子掲示板等にかかせ、授業内容に関するフィードバックを受講生からほぼ毎回得るようにつとめた。
- ③担当授業ではほぼすべての授業において、授業の到達目標を示し、到達目標と関連づけた評価を行った。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①英語科教育コースの学生の英語力向上に努める。学生に英語資格試験の受験を進めるとともに、そのための学習環境を整備し、試験対策に協力・支援していく。
- ②英語科教育コースの学生の教育実習に事前事後をふくめ積極的に関わる。
- ③日頃から英語科教育コースの学生に積極的に声をかけ、学生生活、勉学、進路などに関して相談しやすい雰囲気をつくる。
- ④英語科教育コースの学生の就職支援に積極的に取り組む。

#### 2. 点検・評価

- ①英語科教育コース(学部)および言語系コース(英語)(大学院)の学生の英語力向上をねらい、TOEIC-IPテスト(6月1日)を実施した。また、同テストの事前対策英語勉強会(10日間)を開催し、テスト対策を協力・支援した。
- ②「初等中等教科教育実践Ⅲ」を通じて英語科教育コースの学生の教育実習事前指導をおこなった。特に、本学附属小学校・島田祥子教諭および附属中学校英語科・藤井紀代美教諭と連携し、同授業内で模擬実習(附属学校において授業を実施)をおこなった(I-1-①およびII-4-①と関連)。
- ③日頃から英語科教育コースおよび言語系コース(英語)の学生に対し積極的に声をかけたり話す機会を設け、学生生活、勉学、進路などに関して相談しやすい雰囲気をつくってきた。
- ④英語科教育コースおよび言語系コース(英語)の就職支援を積極的に行ってきた。具体的には、進路や留学に関する相談にのったり、教員採用試験の受験対策・準備を促した。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金(2010-2012年度)による研究プロジェクト「英語科教師教育のための教室英語力育成プログラムの開発」の成果を活用し、継続的に研究を進める。
- ②教員養成・現職教育に関する実践的な研究を推進する。また、学校教育現場に積極的に出向き、教育の現実を踏まえた教育研究を進める。

#### 2. 点検・評価

- ①科学研究費補助金(2010-2012年度)による研究プロジェクト「英語科教師教育のための教室英語力育成プログラムの開発」の成果の一部として、「中学校・高等学校の英語科教育に求められる教室英語力を育成するための教員研修プログラムの具体的提案」と題する論文(実践報告)が四国英語教育学会『紀要』第33号に、また、「外国語活動に求められる教室英語力を育成するための教員研修プログラムの具体的提案」と題する論文(実践報告)が『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』No.32に掲載された。
- ②2012年度の教育実践フィールド研究の実践報告「中学校英語科授業のプラス1時間にどのように対応するか—英語スキルアップトレーニング法の開発—(その4)」を『鳴門教育大学授業実践研究』(第13号)に投稿した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

①平成25年度に担当することになる委員を通して、本学の運営に貢献する。

### 2. 点検・評価

- ①大学院入試委員会の委員として本学の運営に携わった。
- ②修士課程教員養成カリキュラム研究開発委員会の委員を担当した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①教科教育実践や教育実習等を柱に附属学校教員と積極的に連携を図る。
- ②鳴門教育大学英語教育学会や四国英語教育学会など地域の英語教育研究活動に積極的に参画する。
- ③教育支援講師・アドバイザー派遣制度等を通して積極的に地域の学校に出向き教育支援を行う。
- ④公開講座・免許更新講習や地域教員研修等を通して、優れた教員の育成に積極的に関わる。

### 2. 点検・評価

- ①初等中等教科教育実践Ⅲにおいて本学附属小学校・島田祥子教諭、附属中学校・藤井紀代美教諭と連携し、教育実習の事前指導を行った。(Ⅰ-1-①およびⅡ-1-②と関連)
- ②四国英語教育学会の事務局長・徳島県支部理事を担当した。全国英語教育学会徳島研究大会(2014年度開催)の事務局長を担当し、研究大会の準備を進めた。
- ③本学開催の公開講座(8月24日)と免許更新講座(8月24日)において「教室英語(Classroom English)の使用について」と題し、講義・演習を担当した。
- ④徳島市・名東郡中学校英語弁論大会(9月17日)の審査員を担当した。
- ⑤徳島市・名東郡中学校英語教育研究会(11月12日)において研究授業の助言および講演をおこなった。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科のマル合の資格を得た。
- 修士課程教員養成カリキュラム研究開発委員会主催の学内研究会(10月30日)とシンポジウム(2月23日)にて発表した。